胃がん検診内視鏡読影の判定基準

以下の病変に対しては、原則生検の必要はない。静脈瘤の生検は禁忌。（対策型ﾏﾆｭｱﾙより）

　①典型的な胃底腺ポリープ　　　　 ②タコイボびらん 　③黄色腫

　④血管拡張症（Ｖasculer ectasia） ⑤5mm以下の過形成ポリープ

　⑥十二指腸潰瘍

※GradeⅢ.Ⅳ.Ⅴ.その他を精密検査とする。

GradeⅠ.Ⅱは精密検査不要

※その他の場合、胃がん内視鏡読影カードに病変も記載すること。

※（1） Grade Ⅴ　癌所見

※（2） Grade Ⅳ　癌が強く疑われるが癌の確定診断を下しえない所見

　　　　　　　　　　　　　 癌を疑う潰瘍

癌を疑うポリープ （目安として2㎝以上）

※（3） Grade Ⅲ　良性か悪性かの鑑別が必要な所見

　　　　　　　　　　 粘膜下腫瘍（SMT）（目安として2㎝以上）

　腺腫（adenoma）

癌を疑う発赤・褪色域・平坦隆起・陥凹

（4） Grade Ⅱ　良性（正常）と判断できる所見

　 　　　　　　 潰瘍瘢痕　　　　表層性胃炎

びらん性胃炎　　過形成胃炎

肥厚性胃炎　　　萎縮性胃炎

胃底腺以外の癌を疑わないポリープ

以前に癌を疑い生検した病変部位

（発赤・褪色域・平坦隆起・陥凹）

（5） Grade Ⅰ　正常組織及び癌を疑わない所見

　　　　　　 胃底腺ポリープ

　　　　　　　　　　　　　　ピロリ菌未感染胃

※（6） その他　　胃癌以外の要精査・要治療病変（悪性病変、疑い含む）

　　　　　　 食道癌（疑い含む）

　　　　　　　　　　　　　　治療を要する（逆流性）食道炎、食道静脈瘤

　　　　　　　　　　　　　　治療を要する胃潰瘍、十二指腸潰瘍など